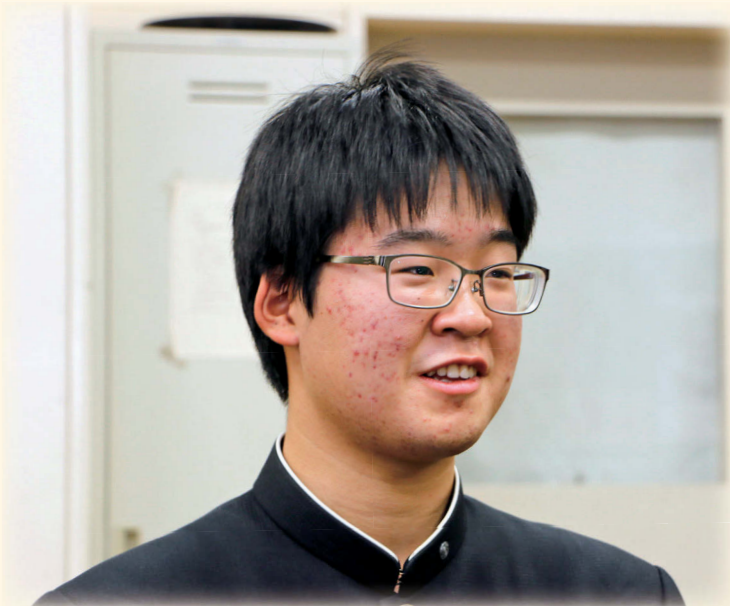


ボランティア活動を通じて 当別が第二のふるさとに！

現代いまを生きる

当別高校ボランティア局

こうのすけ
局長 阿部 洸之介 さん
(当別高校3年)



↑当別青春フットパスでガイドする阿部局長

今年度は石狩川周辺を巡るツアーを企画。毎年参加を心待ちにしているリピーターの方が多いです。

今回は、当別の魅力を伝えるウォーキングツアー「当別青春フットパス」を運営する当別高校ボランティア局の阿部洸之介局長にお話をお聞きしました。

ボランティアが生きがいに

ボランティアに興味を持ったのは中学生のとき。友人に人手が足りないと言われて、町内会のお祭りを手伝いました。お客さんがお祭りを楽しんでいる姿を見て感動。みんなで協力して人助けをすることのすばらしさを知りました。進路を決める際にパンフレットを見て、当別高校にボランティア局があるのを知り、入学後すぐに入局しました。

当別高校ボランティア局は生徒会の外局に位置しています。現在の部員は、3年が私と副局長の2人、1年生3人の計5人ですが、部活動と違って入局していない生徒も有志で活動に携わることができます。活動は多岐に渡りますが、「当別青春フットパス」には特に力を入れています。

当別は第二のふるさと

一番の思い出は一年生の時の夏合宿。当別の魅力について商店街で調査しました。その際、町の人から当別の歴史や名所をたくさん学ぶことができ、フットパスのガイドの時に紹介することができました。その後も当別のことを調べれば調べるほど好きになっていき、私は札幌出身ですが、今では第二のふるさとのように感じられるくらい愛着が湧きました。



↑伊達山のエゾヤマザクラ

保護するためにボランティア局で周りの雑草等を除去し、フットパスのコースに取り入れました。

コロナ禍でも創意工夫

新型コロナウイルスの影響で活動が制限され、ここ2年はフットパスも満足に開催できませんでした。何か代わりにできることがないか常に模索し、フェイスシールドを制作して町内の医療機関に寄贈したり、外出できない高齢者を励ますために絵手紙を届けたりしました。コロナでできなくなったことは多かったけれど、新しいことを自分たちで生み出し、経験することができたので、充実した3年間でした。

地域の魅力を伝えたい

私は元々人見知りで、初対面の人と話すのが苦手でしたが、ボランティア活動を通じて克服することができました。卒業後は観光系の専門学校に進学し、将来は地元の魅力を発信する仕事に就きたいと考えています。後輩たちには、今以上にフットパスを盛り上げてもらい、私のように当別が第二のふるさとだと思えるようになってほしいです。